

巻頭言

近接場ナノプローブ分光の現状と展望……………雲林院宏

解説

近接場光学と走査トンネル顕微鏡の融合によるナノ分光
……………今田 裕ほか

探針増強ラマン散乱による原子スケールの極微分光
……………熊谷 崇

光誘起力顕微鏡を用いたサブナノメートルスケールの
光電場の可視化……………菅原康弘ほか

超安定探針増強ラマン分光測定システムの開発
……………加藤 遼

探針増強ラマン分光用の再生可能貴金属修飾 AFM 探針
の開発……………吉村雅満ほか

フォーカス

探針増強ラマン分光装置の普及と今後の課題
……………中田裕之ほか

光学ハイライト

気になる論文コーナー

今後の特集予定

53 巻 9 号「バーチャルリアリティと光学技術の融合」

53 巻 10 号「次世代の人工現実感を映し出す技術」

53 巻 11 号「バーチャルリアリティが切り開く視覚科学」

53 巻 12 号「ハイパースペクトルイメージングの技術動向」

54 巻 1 号「中赤外フォトニクスデバイスと応用の広がり」

つい先日大学のイベントで、高校生が数名、私の研究室に一日研究室体験に来て実験をしました。私や研究室の学生にはありふれた、普段何気なく使っているレーザーや顕微鏡、光検出器を見て、触って、目を輝かせていました。液晶やガラスや金属ナノ粒子やいろんな材料を目の前にして、上から見たり、横から見たり、透かして見たり。その彼らの姿を見て自分が恥ずかしく、深い反省を思わずにはおれませんでした。私は今、いったい何を見たいのだろうか。あの若い高校生の頃の瞳で、見て、触って、考えなければならないと思いました。その日帰宅して、庭のブルーベリーにきれいな実がたくさん付いていることに気づきました。いつの間にか、色も黄緑色からだんだんきれいな紫色に変わってきている。光学の科学者を自称していながら、庭の色が変わっていく様子にも気づいていない。空の色や虫の色にも気づいていない。それでは全然ダメだと思いました。ちゃんと光を見て、色を見て、そこに美しさとすばらしさを感じる。血の通った「感じる心」がなかったら、学問はダメだと思いました。本号の特集として取り上げさせていただきました表面プラズモンは、究極に美しいナノスケールの光の姿です。是非、読者の皆様方にもご堪能いただけたら幸いです。(庄司, 中村)

原著論文を募集しています

「光学」では、日本語の原著論文を募集しています。会員・非会員を問わず、自由に投稿できます。皆様の意欲的なご投稿をお待ちしております。

また、上記に加え、特集テーマに関連のある原著論文も募集しています。この場合、採択となった論文はその特集号に合わせて掲載できるよう、査読作業をより迅速化いたします。特集テーマ関連の投稿締切は、当該特集号発行月の4か月前の10日です。特集号を明記のうえご投稿ください。

日本光学会ホームページ <http://myOSJ.or.jp/>

光 学 2024 ©

第 53 巻 第 7 号 <月刊>

2024 年 7 月 10 日 発行

定価 1,500 円 (送料実費)

発行/ 一般社団法人 日本光学会

〒 112-0002 東京都文京区小石川 2-23-11

常光ビル 7F 有限会社学術新報社内

E-mail: info@myOSJ.or.jp

印刷/ 大昭和印刷株式会社

「光 学」編集委員会

芦原 聡*	的場 修**	内田 美幸	江川麻里子
大平 倫裕	岡野 誉之	奥平 陽介	桶谷 亮介
角田 英俊	金 蓮花	黒坂 剛孝	小林 弘和
酒井 大輔	庄司 暁	瀬谷 安弘	田代 知範
豎 直也	玉田 洋介	張 開鋒	角井 泰之
中川 桂一	中山 雄太	日達 研一	藤井 瞬
藤井 宏昌	藤村佳代子	細木 藍	堀切 智之
堀崎 遼一†	水谷 康弘†	三宅 大助	本山 央人
安田 英紀	矢次 健一	和田 篤	

*委員長 **副委員長 †光科学及び光技術調査委員長

編集局 新沢佐和美

制作/ 有限会社学術新報社

電話 03-3816-3991 Fax 03-3816-3992

E-mail: kogaku@academic-j.co.jp